



信州大学教育学部附属長野小学校学校だより



目に美しい新緑が飛び込んでくる季節となりました。今回は5月の副校長講話の様子を中心にしてお伝えします。今回のお話は、副校長先生が、当日現地からZoomで繋いでの生中継となりました。

校歌「信濃の国」を巡る(5月1日 副校長講話)

第一回 久米路橋

全校のみなさんおはようございます。信濃の国めぐりの投票では、たくさんの皆さんに投票をしてもらい、ありがとうございました。今日は、そのうち第5位だった場所に来ています。

第5位の場所はどこだったのでしょうか？それでは、早速発表します！第5位は、じゃかじゃかじゃかじゃん、ここです！（久米路峡を写す）

さて、この漢字なんて読むのでしょうか？高学年の皆さんは、分かりましたでしょうか？では、この読み方ですが、こちらに行ってみましょう！



「しはじめく」あれっ？て思った人もいたかもしれません。これを右から読むと、(間)そう「くめじばし」！ですね。第5位の久米路橋、ちょうど200票でした！ありがとうございました。長野県の地図の中では、この場所になります。校歌にも出てくる犀川にかかる橋です。



それでは、早速橋の上を通ってみましょう。しっかりした橋ですね。上流の景色を見てみましょう。新緑がとても美しいですね！あっ、あそこに滝も流れ落ちています。とてもきれいな景色ですね！久米路橋を中心とするこの犀川の風景は変化に富んでいて、昔から歌を詠む人や絵を描く人が多く訪れる場所なのだそうです。さて、下流側も見てみましょう！少し細長い湖のようになっていますね。実は、この下流に水内ダムという大きなダムがあって、水が貯まった状態になっています。橋の長さは、45メートル、水面からの高さは22メートルの橋です。一見普通の橋のように見えるのですが、この橋には、橋の上からでは気づかない見所が隠されています。ちょっとそれを見に行きましょう！

橋の横が見える場所にきました。皆さん見えますでしょうか？アーチ形をした橋です。橋の横も見てみましょう。何か気付いたでしょうか？何か気付いた人は手を挙げて教えてもらってもいいですか？すみません、平野先生、手を挙げている人に指名してもらってもいいですか？音声のミュートを解除して、お話してください！

平野先生「それでは1年2組の手を挙げている人お願いします。」

児童「横から見ると、なんか模様がある！」

はい、そうですね！この模様何でできているのでしょうか？そうです！出ました！珍しい石をはめ込んで、こんなおしゃれな模様を作っているんですね！この石、鉄平石といいます。こうい



う石です。（鉄平石を写す）平らにはがれる石です。この石は、長野県内では、諏訪地方と佐久地方に分布する石です。この今の橋ができたのは、昭和8年、今から90年も前のことだったそうです。こんなおしゃれな模様を橋の横にデザインしている橋は、全国でも珍しいそうです。現在、この橋は、国の登録有形文化財に指定されています。

さて、信濃の国の歌詞をつくった人は、浅井冽という先生でした。その浅井冽先生が、とても好きだったといわれる平安時代の「拾遺和歌集（しゅういわかしゅう）」にある歌が、この石碑に刻まれています。ちょっと読み取るのが難しいですが、みんなで読み取ってみましょう！「埋木はなか虫はむといふめれば 久米路のはしは心してゆけ」（間）あれっ、と思った人もいたかもしれません。そうです。「♪心してゆけ 久米路橋♪」校歌信濃の国の4番に登場してくる歌詞ですね。この石碑とは逆になっていますが、同じ文です。浅井先生は、明治時代にこの橋を何回も訪れたそうです。また、「埋木は」とありますが、昔はこの橋は木でできていたんですね。この歌の意味は、「木のなかは虫が食べているかもしれないから、気をつけて渡ってくださいね。」という旅人への優しい思いが込められていると思います。また、江戸時代に信濃の四大河川（校歌の2番、♪北に、犀川、千曲川、南に木曾川、天竜川♪）に架かっていた橋は、ここだけだったと、ある書物に書いてありました。浅井先生は、そんな素晴らしい景色の中にある人々に愛されるこの橋を、ぜひ「信濃の国」の歌の中で、多くの人に紹介したいと思ったのではないのでしょうか？

さて、さきほど「江戸時代に信濃の四大河川に架かっていた橋は、ここだけだったと、ある書物に書いてありました」と言いましたが、昔の人は、なぜこの場所に橋を架けたのでしょうか。その謎に迫る、次の場所に行ってみましょう！実は、この岩にその秘密が隠されています。

この岩をよく見ると、中に石が入っているのが見えますか？実は、この岩は、信州が海だった時代、今から420万年前に火山が噴火してでてきたものです。火山が噴火して、ガラガラ流れてきた石が固まってできました。だから、こういった石も含まれています。非常にかたい岩で、削ったり、砕いたりするのがとても難しい、しっかりとした石です。



もう少し上に登ってみましょう。景色がとてもいいです。アーチ型の久米路橋の全景が斜めからですが見えますか？実は、さっきのとてもかたい石ですが、この久米路橋のこちら側だけでなく向こう側にも分布しているんです。また、見てもらうとわかると思いますが、ここは川の幅がとても狭い場所になっています。この場所は、実は、犀川の中でも最も川の幅が狭い場所です。

さて、なぜ昔の人は、この場所に立派な橋を架けることができたのでしょうか、また自分なりに考えてみてください。

今回は、投票結果が第4位だった場所に行きます。その第4位の場所とは！じゃかじゃかじゃかじゃかじゃかじゃん「つづく」。全校の皆さん、見てくれてありがとうございました。また、学校で会いましょう！さようなら！



耳を澄ませて

新緑が目眩しく、緑が滴る季節となりました。二十四節季では夏を迎え、山滴る（やましたたる）季節となりました。自然体験園では、今日も子どもたちが躍動しています。大池の横に佇む大きな柳の木。濃い緑の景色の中であって、優しい緑の表情のこの大木の周りで子どもたちは木にぶら下がっていたり、木の袂では、小さな新芽を数えたりする子どもたちがいます。それぞれに自然から体を通して、移りゆく季節の一瞬を学んでいます。